

甲斐市立玉幡中学校 学校関係者評価書

令和4年2月28日（月）

（玉幡中学校）学校関係者評価委員会作成

第2回 学校関係者評価委員会

実施日：令和4年1月31日（月）午後7時～

会 場：玉幡中学校 会議室

参加者：学校関係者評価委員：小林幸雄，太田節子，望月智和，望月 守，廣瀬真美

学校側：校長：山本成利，教頭：雨宮 実，教務：河西よしみ，生指：三井 久

* 以上の予定であったが，コロナウイルス感染症の蔓延防止のため，中止とした。そのため，学校でまとめた自己評価書を各評価委員に送り，文書で返してもらうという紙上会議の形をとった。

I 学校側から提案された内容

- ・学校の全体の様子
- ・自己評価結果の説明
- ・生徒指導に関わる取組状況について

II 協議された主な内容(出された意見等)

- ・教職員による自己評価の集計結果及び生徒・保護者アンケートの集計結果をもとに項目ごと結果分析，考察，改善策を提案し，質問，意見，アドバイスを頂いた。
- ・今日的教育課題，本校における課題について意見をいただき，本校の実態把握及び共通理解のもと，次年度に向けての方策や今後の方向性について意見をいただいた。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- ・教職員，保護者，生徒アンケートをもとに考察し文章にまとめて提示した。

II 特 徴

- I．学校教育目標に関して・学校経営について
- II．学校運営について
- III．学習指導について
- IV．生徒指導について
- V．地域との連携について
- VI．学校の特色に関して
- VII，創甲斐教育について

以上，七つの項目について達成状況や改善策を示した。これについて以下のような意見が出された。

- ・やはり親と子供のギャップがあり，どの家庭でも同じだが子供の努力を親が感じられず，家庭内がぎくしゃくしてきている状況で，親も子も笑顔になれる時間があれ

ば嬉しいと思う。

- ・家庭の経済も苦しくなっている中でのコロナ禍で、自分も息が詰まってしまう。しかしその中での教職員のみなさんの指導はありがたく思う。
- ・今年度もコロナ禍において教職員のみなさんのさまざまな場面での苦勞を感じないではいられなかった。その中でもできることを模索し、前へ進む学校側の姿勢を感じることができた。ICT を効果的に活用し、より良い学校生活を、保護者との連携を深めることが来年度更に向上することを期待する。

Ⅲ 今後の課題として意識されたいこと

- ・コロナのために分散登校になり、教職員や保護者の大変さがしみじみと心に染みる。ありがたく思う。地域との交流もなくなり、声かけをしても返事が少しずつ薄れていくのが寂しく思われる。(マスクをつけていると、人が分かりづらい)。
- ・PC の導入により教職員も忙しくなり、授業の課題など、ますます時間が限られ、苦勞している様子を心苦しく思っている。
- ・子供たちも同じ様子で、親が PC の手伝いをしてくれる家は勉強するが、親が PC に不慣れで分からないと PC を開けてマンガや自分の遊びに使っている状況もある。
- ・おおむね学校生活は落ち着いていて、良い環境であると感じる。さまざまな制約を強いられる中でも、今後も臨機応変に柔軟な対応で学校生活を維持してほしい。そのために ICT の活用は今後ますます必須となり、教職員の負担が増すこととなるので、補助教員など専門性の知識を持つ人材の必要性を感じる。
- ・子供は大人の様子を見ながら話すので、裏の心を読み取る力がほしい。
- ・学園祭のライブ配信、オンライン授業の取り組みについて、近隣の保護者の方々からは好意的な話を聞く。学校の取り組みの成果だと思う。生徒のクロームブックへの関心も高く、今後この部分を伸ばし、学力向上につながるような授業の取り組みができるようになってほしい。
- ・コロナの影響で教職員も生徒たちも学校生活や学習方法等の変化を余儀なくされている今、教職員の苦勞の程がうかがえる。まずは体を大切にしてほしい。

※特記事項

- ・甲斐市教育委員会指定「甲斐市玉幡中学校区小中連携教育」推進事業への取組を通し、小中学校9カ年間を見通した学習や生徒指導のあり方について菊池省三先生を招聘して授業提案や講話を受けたこと、また、中学校生徒が小学校に出前授業に出向いたり教職員の交流を通じたりして大きな成果が得られた。

記載責任者（甲斐市立玉幡中学校 学校関係者評価委員）氏名：小林 幸雄 印